



プレスリリース No. 08/97
即時発表用
2008年5月1日

国際通貨基金 (IMF)
ワシントン D.C. 20431 USA

政府系投資ファンドの自主的行動規範の策定を促す国際ワーキンググループを創設

政府系投資ファンド国際ワーキンググループは本日、ワシントン D.C.で以下の声明を発表した。

2008年4月30日ならびに5月1日、政府系投資ファンド (SWF) の代表者はワシントン D.C.の国際通貨基金 (IMF) 本部で会合を開催。この場で、SWF、投資受け入れ国、経済協力開発機構 (OECD) ならびに欧州委員会の代表者といった関係者間の有益な意見交換がなされた。参加者は、SWF の投資が経済面および金融面のリスクとリターンを考慮して行われているとの意見で一致。政府系投資ファンド国際ワーキンググループ (IWG) がこの会合で正式に発足し、2008年10月までに SWF の投資慣行と投資目的を適切に反映した SWF 行動規範一式を提出する。

IWG は IMF 加盟 25 カ国¹の代表から構成され、参加 SWF によってアブダビ投資庁 (ADIA) 幹部と IMF 通貨・資本市場局長が共同議長に選出された。

IWG は、国境を越えた投資の自由な流れとオープンで安定した金融システムの維持を後押しするために、既存の大量の行動規範や慣行を活かして自主的な共通行動規範を策定し、これに合意することを目的としている。IWG の創設は、国際通貨金融委員会 (IMFC) による 2007年10月と 2008年4月の要請に応えたものでもある。

IWG は向こう数ヶ月間にわたってワーキングレベルでの会合を持ち、意見交換の機会を SWF に提供するとともに、IWG 参加者およびその他の関係者間の相互理解を深めることに努める。

この取り組み全般を通して、IMF は事務局の役割を務め、IWG の討議を促し、会合開催を手伝うことになる。

¹IWG 参加国はオーストラリア、アゼルバイジャン、バレーン、ボツワナ、カナダ、チリ、中国、赤道ギニア、イラン、アイルランド、韓国、クウェート、リビア、メキシコ、ニュージーランド、ノルウェー、カタール、ロシア、シンガポール、東ティモール、トリニダード・トバゴ、アラブ首長国連邦、米国、ベトナムである。サウジアラビア、OECD、世界銀行は恒久的なサポーターとして参加。